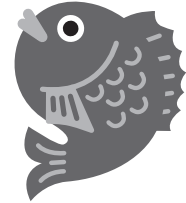


曾根崎交通安全協会
曾根崎自家用自動車部会
〒530-0027
大阪市北区堂山町1-5
三共梅田ビル6階611号室
TEL (06) 6315 - 8505
FAX (06) 6315 - 8506
制作・印刷 (株)タップハウス



謹賀新年



本年もよろしくお祝い申し上げます
令和5年 元旦

曾根崎交通安全協会
会長 中野由彦
役員一同

曾根崎警察署
署長 中網健治
署員一同

年始のごあいさつ

曾根崎交通安全協会
会長 中野由彦

明けましておめでとうございます。
皆様には、輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。
昨年中は、当協会の業務運営並びに交通安全諸活動の推進に格別のご支援ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

近時の社会情勢をみてもみますと、政治・経済活動等にも影響を与えている新型コロナウイルスも3年越しとなり、重症化リスクが軽減された報道があるものの、感染拡大により「赤色信号」が灯り、未だ終息の兆しが見えない厳しい状況が続いています。

しかし、日常は行動制限のない状態に戻り、年末年始の公共交通機関やマイカーを中心とする交通流もコロナ禍前に戻りつつあります。

さて、大阪府下における昨年の交通事故情勢は、交通死亡事故死者141人（前年比+1人）でした。統計を取り始めた昭和23年から初めて、全国ワーストワンとなる不名誉な結果となりました。

曾根崎警察署管内の交通事故状況は、発生件数、負傷者とも前年に比べ減少し、交通死亡事故の発生もなかったと聞き及んでいます。

また、全国の交通死亡事故も6年連続減少し、昭和23年以降、最も少ない2610人（対前年比-26人）と減少しました。

ただ、悪質な重大交通事故は絶えない状況が続いています。

年末年始には報道によりますと、堺市内で自治会活動で地域住民の安全・安心を確保するための歳末防犯警戒活動中の集団に、飲酒運転の車が警戒中の2人を死亡させる、死亡ひき逃げ事件が発生し治安維持に貢献していた方々の死に大きな反響を呼びました。

また、新年早々、福島県郡山市の市道交差点で乗用車と軽自動車が出合頭に衝突し、軽四輪車は道路脇で横転炎上し、乗車していた家族4人が死亡する痛ましい交通事故が発生しています。

更に、年始の帰省中の親子が乗った軽四輪車が自損事故を起こし、走行車線に停止していた同車に、前を良く見ないで走行してきたトラックに追突され、幼い1歳の赤ちゃんが死亡し、2歳の幼児が意識不明の重体となる痛ましい交通死亡事故が発生しています。

家族4人の死亡事故と、幼児2人の死傷事故を報道内容から検証してみますと。

〈次ページへつづく〉



○ 家族4人が死亡した交通事故の加害運転手は、「現場が単路で交差点であることを知らなかった」
 ○ 乳幼児が乗った車に追突したトラック運転手は「前をよく見ていなかった」
 と、それぞれ説明している。
 このような交通事故を起こした説明報道を聞いて、地域の交通安全の一役を担う協会として何か出来る事はないかを検討しました。
 交差点事故や幹線道等における追突事故については、
 ○ 自動車専用道路や夜間帯の事故は「発炎筒」による危険合図
 ○ 三角表示板（停止表示板）の設置の必要性を訴える
 等の情報提供を、ホームページ・機関紙等で広報し、ドライバー自らが第三の交通事故や交通事故当事者にならない注意喚起を実施する。
 また、曾根崎警察署と緊密な連絡調整を取りながら、効果的且つ実効性が挙がる各種キャンペーン、交通安全教育資器材の充実、啓蒙・啓発品の提供等で、一人ひとりが交通ルールの遵守と交通マナーの向上を目指し、交通安全意識を高める活動を積極的に実施していきます。
 本年も、皆様方の温かいご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。
 結びに、皆様方のますますのご発展と、ご家族のご多幸、ご健勝を心から祈念いたしまして、新年のあいさつとさせていただきます。

年頭のご挨拶

大阪府警察本部

交通部長 寺崎 信夫

明けましておめでとうございます。
 皆様におかれましては健やかに新春を迎えられたこととお慶び申し上げます。
 また、平素は、交通警察業務はもとより、警察行政の各般にわたり、深いご理解とご支援・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。



さて、昨年の府下の交通事故発生状況は、発生件数、負傷者数が増加し、交通死亡事故についても、夜間帯での発生が増加したほか、幹線道路における二輪車乗車中の死者数が依然として高い割合を占めるなどの状況が見られ、とりわけ、4月には交通死亡事故が相次ぎ発生したことを受けて、大阪府交通対策協議会会長である大阪府知事名の「交通死亡事故多発警報」が発令されるなど、非常に厳しい交通情勢でありました。

そこで、本年も、交通死亡事故の特徴的傾向である「夜間」、「幹線道路」、「交差点」の3要素を重点とする各種対策をはじめ、二輪車の交通事故を防止するための「二輪車“すり抜け運転”ストップ運動」等を引き続き強力に推進するとともに、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に配慮しながら、悲惨な交通事故を一件でも減らすよう、工夫を凝らした広報啓発活動や交通安全教育等を実施してまいります。

また、府民のライフスタイルや交通行動の変化に伴い、通勤・通学や配達を目的とする自転車利用のニーズが高まっているところでありますが、府下における自転車に関連する事故は、全事故件数の3割以上を占め、警察としましては、自治体、学校、関係機関・団体及び自転車関係事業者と緊密に連携しながら、自転車に関連する事故の発生状況等の情報共有や、年齢層に応じた効果的な自転車交通安全教育を実施するとともに、自転車に対する取締りをさらに強化するなど、自転車の安全利用に向けた取組を推進してまいります。

本年は、道路交通法の改正に伴い、全ての自転車利用者に対し、ヘルメット着用の努力義務が課されるほか、特定自動運転に係る許可制度の創設、自動配送ロボット等の新たなモビリティに関する交通ルールの整備が図られる予定であり、警察として新たな対応が求められるところでありますが、交通事故の抑止に向け、関係機関・団体の皆様方の協力を得て、府民が安心して暮らせる「安全なまち大阪」の確立に向けて邁進してまいりますので、引き続き、ご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、曾根崎交通安全協会・自家用自動車部会の益々の御発展と、皆様の御健勝、御多幸を心から祈念申し上げます、新年の御挨拶とさせていただきます。

年頭のご挨拶

曾根崎警察署

署長 中網 健治

あけましておめでとうございます。
 皆様方には、健やかな新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。
 平素は、交通安全活動をはじめ、警察行政の各般にわたり、深いご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、昨年の交通情勢を見ますと、当署管内では交通死亡事故の発生はなく、件数、負傷者数ともに前年より減少いたしました。

大阪府下全体では件数、負傷者数は前年より減少しましたが、死者数については141人を計上し、初の全国ワースト1となるなど非常に厳しい状況にあると言えます。

〈次ページへつづく〉



また、昨年も引き続き、新型コロナウイルス感染症対策による各種制限下ではありましたが、感染対策に万全を期しつつ各種広報啓発活動を展開して参りました。

昨年の主な取組といたしましては

- ・書道家青柳美扇氏を招いた「夏の交通事故防止」交通安全啓発
- ・歌手Ms. OOJA氏を招いた「秋の交通安全運動初日キャンペーン」
- ・自転車、電動キックボードの集中取締り
- ・携帯電話使用等啓発、指導、取締り

など、各種メディアも活用し効果的に交通安全を呼び掛けることができました。

本年は、前年より一層交通安全活動を活発に行い、悲惨な交通事故が1件でも無くなるよう署員一同、全力で取り組んで参りますので、引き続き、格別のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、曾根崎交通安全協会・自家用自動車部会の益々のご発展と、会員の皆様のご健勝、ご多幸を心から祈念いたしまして、新年の挨拶とさせていただきます。

令和4年の交通事故発生概況について

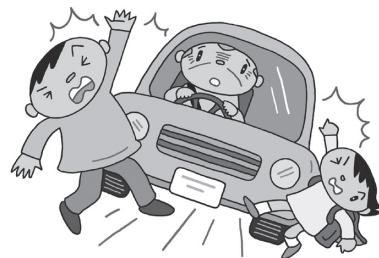
交通事故死者数は141人前年比+1人でした

1 交通事故の概況

- 件数、死者、負傷者数とも僅かであるが増加しました。
- 死者数は、全国ワースト1位でした。

2 特徴的傾向

- 高齢者の死者数は57人で 前年比-11人でした。
- 高齢運転者による交通事故が増加しました。 4,818件 (前年比 +132件)
- 飲酒運転による事故件数が増加しました。 159件 (同 +28件)
- 飲酒運転による死者数が増加 9人 (同 +1人)
- 自転車関連事故件数が減少 8,838件 (同 -42件)
- 自転車相互事故件数も減少 542件 (同 -25件)
- 二輪車関連事故件数が減少 6,055件 (同 -219件)
- 二輪乗車中の死者が減少 39人 (同 -6人)



大阪府内の交通事故

区分	年	令和4年	令和3年	前年対比	増減率
件数		25,442	25,388	-54	+0.2%
死者数		141	140	+1	+0.7%
内高齢者		57	68	-11	-16.2%
負傷者数		29,671	29,505	+111	+0.4%

曾根崎警察署管内の交通事故

区分	年	令和4年	令和3年	前年対比	増減率
件数		228	256	-28	-10.9%
死者数		0	0	0	—
負傷者数		269	300	-31	-10.3%

令和4年 全国の交通死亡事故(ワースト10の都道府県)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
都道府県	大阪	愛知	東京	千葉	兵庫	北海道	神奈川	埼玉	茨城	静岡
死者数	141	137	132	124	120	115	113	104	91	83
前年比	+1	+20	-1	+3	+6	-5	-29	-14	+11	-6

令和5年使用 交通安全年間スローガン

内閣総理大臣賞
(最優秀作)

【一般部門A】(運転者(同乗者を含む)に呼びかけるもの)
運転は ゆとりとマナーの 二刀流

【一般部門B】(歩行者・自転車利用者に呼びかけるもの)
自転車に 乗るなら必ず ヘルメット

【子供部門】(中学生以下自分たち自身へ交通安全を呼びかけるもの)
ペだるこぐ ぼくのあいぼう へるめっと

発炎筒を有効活用して下さい。

自動車運転者及び同乗者は、高速道路、自動車専用道路、一般道路等で、車両故障や交通事故を起こし、他の通行車両の通行に支障が生じ危険を防止する必要がある場合「道路運送車両の保安基準」に定められている「非常信号用具」(発炎筒)を発光させ他の通行車両に対し危険防止を促す義務があります。

※ 根拠

道路運送車両の保安基準第43条の2(非常信号用具)には、自動車には、非常時に灯火を発光することにより他の交通に警告することができ、かつ、安全な運行を妨げないものとして、灯火の色、明るさ、備え付け場所等に関し告示で定める基準に適合する非常信号用具を備えなければならない。との定めがある。

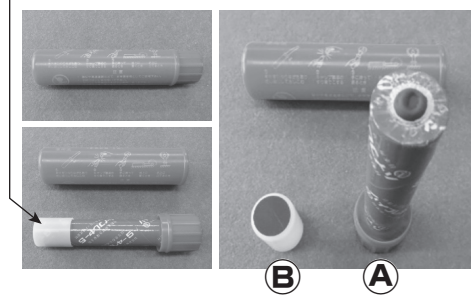
発炎筒は余り使用されていない。

- 夜間、年始の帰省中の親子が乗った軽四輪自動車が自損事故を起こし、停止している所へトラックが追突し、幼児等が死傷する交通事故が発生しました。
- 報道等で、高速道路で交通事故等で停止している車両に後続車両が追突事故を起こし、重大事故が起きたニュースを見聞きします。このような事故で、発炎筒が使用され二次事故を防止している事が殆どありません。

発炎筒は、基準では夜間2キロメートル、昼間600メートル前方から視認出来る光度を要する。と定められていますが直線道路では、それ以上の手前から発光している事が視認できます。

発炎筒の構造と使用要領

- ①の先端部分と②の先端部分を擦り合わせると発火します。(②は中キャップ)



- 国産車の場合、殆ど発炎筒は車の助手席側の左下部にあります。
- 外国車(右ハンドル)は右側助手席下部にあります。



筆者の回顧 (その一言で命が救われていたかも)

交通事故は同乗者の注意喚起が重要である。

数年前、某市で発生した交通死亡事故であるが、助手席に同乗していた母親は危険に気が付いていた。

秋の夕刻、若い女性が普通乗用車を運転し、助手席には母親が同乗し、片側一車線の指定速度 40 kmの道路を走行していた。

後方に、他県に居住する親族が運転する車が追従し、若い女性が道案内を兼ねて先導中でした。

道路の両サイドには民家や小売りの商店が点在し、時折道路を横断する歩行者が散見される道路環境である。

被害者となった高齢女性は、家族全員で飲食店を営み家事や育児にも関わっていた。

1歳の孫(男児)が泣いていたので、孫をあやすため表道路に出て、向かいにある公園に行くため道路の横断を始めた。

高齢女性は、泣いている孫に気を奪われ、左右の安全確認が不十分であったのか、孫を抱いたまま横断を始めた。

そこへ、若い女性が運転する車は、時速 40 km前後で走行していたが、女性はルームミラーで、親族が運転する後続車の方に目を奪われ前方不注視の状態で同一速度で走行し、視線を前方に移した時には、道路を横断する高齢女性と赤ちゃんは目前に迫っていた。

女性は急制動措置を講じたが間に合わず、歩行者を自車前部ではね飛ばし、高齢女性は孫を抱いたまま十数メートル

はね飛ばされ、高齢者は即死の状態であった。

赤ちゃんは、警察官が現場に到着した時、若い女性に抱きかえられ、赤ちゃんに「死なんといて、死なんといて」と言って泣き叫んでいたと言う。

その後、赤ちゃんは救急車で病院に運ばれ、打撲程度の軽傷であった。

事故後、関係者の取り調べをした結果、助手席に同乗していた母親は、

赤ちゃんを抱いて前方を横断する歩行者に気が付いていたが、運転していた娘も歩行者に気が付いているものと思っていた。

との供述を得た。

助手席の母親が「歩行者」に気が付いていた時点で「歩行者」とか「あぶないよ」と注意喚起していれば防げた交通事故であったと思われる。

回顧

今も、忘れることが出来ない被害者も加害者も不幸な事故でした。

被害者も尊い家族を失い辛い日々が続き、若い女性も過失といえども、

受刑も強いられたであろう刑事上の責任 人の命を奪った苦悩を生涯に亘り忘れる事が出来ない記憶。

交通事故の恐さを筆者自身も思い知らされている。

尾崎 執